

【巻頭言】

特集 シンポジウム「減圧症症例登録に向けてーその1ー」

亀田総合病院 救命救急科 鈴木 信哉

東京医科歯科大学 高気圧治療部・スポーツ医学診療センター 柳下 和慶

東京医科歯科大学 高気圧治療部 小島 泰史

防衛医科大学校 脳神経外科学講座 和田孝次郎

昨年6月に開催された第54回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会のシンポジウム「減圧症症例登録に向けて」の記録として、各演者に執筆を依頼し、論文化したものです。10演題と多くなったため、今号では5演題をまずその1として掲載しております。このシンポジウムではあえて減圧症（DCS: decompression sickness）に絞った議論をすすめたいと考えておりました。しかしながら、実際にはDCSと動脈ガス塞栓症（AGE: arterial gas embolism）との鑑別に困難な場合があり、両者をまとめて減圧障害（DCI: decompression illness）としたほうが良いのではないかとの根強い意見もあり、DCS、DCIどちらの用語を使用するかについては演者に委ね、用語の統一は図れませんでした。そのため、論文中も各執筆者に用語の選択はお任せしております。この問題は引き続き今後の課題として考えております。ただし、当初の予定通り、今回はSANDHOG criteria（減圧症用）を中心とした議論に絞って執筆いただいております。このため、ほぼすべての論文でSANDHOG criteria（減圧症用）が引用されております。混乱を避けるためにはSANDHOG criteria（減圧症用）の日本語訳が必要との共通認識にたち、鈴木先生、小島先生が中心となり翻訳を行いました。各執筆者にはこの日本語訳を御使用いただいております。

御執筆の労をおとりいただいた先生方に深謝申し上げますとともに、本特集の内容が読者の先生方のお役にたちますことを願っております。